

宮の森



発行元・白鳥神社総代会

四ツ石の謎 (一)



四つの石に歩み寄り、ゆっくり深呼吸して、色々な角度から眺めてみたとき、面白いことに気がつきました。大鳥居右横の石と本殿右手前の石を結んだ南北の線、そして、大鳥居左横の石と稲荷神社手前の石を結んだ南北の線が、それぞれ拝殿のちようど外側を通っているのです。つまり、四つの石で囲む四角形は参道と、拝殿の建屋をぴったり包み込む形になるわけです。

これによって大胆な推理が可能になります。立石の役割が、神聖な場所を守ることだとするならば、四つの石が置かれた目的は、「参道と拝殿とを守護するためだった」という仮説が成り立つのです。ただ、この説が正しいとしても、なぜ本殿ではなく、拝殿を守る結果になっているのか、という疑問は残ります。

(1) 白鳥町史によると、江戸時代中期以降、お盆の白鳥神社では拝殿踊りが行われて来たようです。享保8(1723)年の記録に「盆中お宮にて踊申事、奉行より停止の書状到来」とあるように、郡上藩が一時的にストップをかけたくなるほど、毎年のお盆踊りは盛り上

がっていたはずですが。日々の生活苦を忘れ、老若男女が心を通わせられるお盆踊りが白鳥の人々にとつてどれほど大切であったかは想像に難くありません。当然、踊りの舞台となる拝殿は、白鳥の繁栄を象徴する建物として愛され、維持されていたことでしょう。

ところが、明治40年の白鳥大火は神社にも容赦なく襲いかかりました。人々の必死の努力で本殿への類焼は免れたものの、拝殿が焼失してしまつたのです。大火の被害は深刻で、白鳥の町屋の大半にあたる189戸が全焼、1120人が焼け出されたそうです。家や財産を失つて絶望の淵に立たされた人々に、そのとき何が残されていたでしょうか。おそらく、ともに支え合つて困難を乗り越えようという、町民同士の心の絆だけだったことでしょう。だからこそ、その絆を確かめ、高め合うことのできるお盆踊りは、いまよりも遥かに重要なものだったに違いありません。

明治末年、白鳥神社の拝殿は立派に再建されました。このとき、人々は白鳥の町が大火の被害をどうとう乗り越えたことを実感し、喜びの涙にむせびながら新築の拝殿を見つめたことでしょう。そして、この拝殿が二度と火事で焼けることがないよう、目に見えない力をも活用しようとする誰かが考えたとしても不思議はありません。拝殿の建屋をすっぽり囲み、参道を遮らない位置に四つの石を立てて結界を張る。それは、将来にわたつてここを守り続けたいという、白鳥の人々の切実な願いに基づいた、必然の仕掛けだったのではないのでしょうか。(終)

*「四神(しじん)」→石古代中国で信じられた、天の四方の方角を司る神獣。

東は青竜、西は白虎、南は朱雀、北は玄武。まだ謎は御座います。大鳥居に向かって左側の背面に、何か文字の様なモノが彫られています。残念ながら読み解けません。どなたか、ご判読出来れば教えて頂きたいものと思います。ご参拝の折には是非ご覧ください。友田様、二回にわたりご寄稿下さり有難うございました。

白鳥稲荷社春の例祭



薫風がおる五月三日、白鳥春祭りに先立ち恒例の神事が関係者四十余名の出席のもと、執り行われました。

コロナ禍で世の中総てが縮小しておりましたが今年には神社の諸事業も正常に戻りつつあります。皆様にご参進いただき感謝申し上げます。以前と比較しますと若干少なくなりましたが総計で百七本の御奉納を頂きました。参道横の大榎も北側は壊死していると判断され、一時は枯渇するかと思われましたが、数度の養生の効果が出たので、木の南側には新緑眩しい新芽が沢山出てきました。新たな生命力に驚嘆するとともに、新たにパワーを受けた感じでした。五穀豊穰、国家安泰、家内安全、商売繁盛を祈念いたしました。

初宮神事



四月九日 午前十時から春の初宮神事を行い、三名の赤ちゃんが親御さんに抱かれて参拝されました。無事の出産誕生を神に報告し、この先の健やかな成長を祈願いたしました。初宮参拝で、赤ちゃんはこの地の氏子として認められた事にもなります。赤ちゃんは地域の宝でもあります。皆で見守り、育む意識を持ちたいものです。おめでとうございます。

◆参拝者名(四月九日)◆

- 白鳥町越佐 林健太郎・楓 長女 柚那ちゃん
- 白鳥町那留 西野雄紀・未久 長女 葉那ちゃん
- 白鳥町二日町 西村清佑・真弓 長男 太清 君



又、七月二十三日 午前十時から、夏の初宮神事を催行。この日は気温三十度を超す猛暑にも関わらず、四名の元氣な赤ちゃんがご両親ご家族に見守られて参拝されました。初宮参りは、この先、長い人生で最初の儀式であります。おめでとございませう。夏子は育つと言われます健やかなご成長を念じます。

◆参拝者名(七月二十三日)◆

- 白鳥町恩地 和田悦司・里奈 長女 心結ちゃん
- 白鳥町為真 小滝京介・麻生 次男 とあ 君
- 高鷲町大鷲 金子祐大・梨恵 長男 暖 君
- 白鳥町大島 加我章太郎・絢菜 次女 世菜ちゃん

宮 掃 除

今年の宮掃除は、四月九日、六月二十五日、七月三十日、九月十日、十月二十二日、の計五回です。冬期間は雪の関係もあり行われない。白鳥区内の各組に清掃箇所が割り振られています。それ以外の所は総代衆が行っております。夏過ぎ頃までは草取りが主体で、秋頃には落ち葉の清掃になります。落ち葉は櫨と杉葉が主体です。櫨の落ち葉は堆肥を作るのに用います



が、杉葉は醗酵がしにくくて堆肥にはなりかねます。本当は選別して処理したいのですが、中々うまくできません。選別したものは良い堆肥に生まれかわっておりますが杉葉は焼却する他ありません。選別する良い方法があ

夏 化 粧



れば教えて頂きたいと思えます。皆様のお陰で神社が美しく保たれております。有難うございます。

七月十六日
白鳥神社宮の森と、秋葉の森との草刈り作業を行いました。白鳥神

社の夏草刈りは恒例で、総代衆と神社関係者併せて二十人程。数台の草刈り機のエンジン音が森に響く。池の泥上げ作業、花木の剪定作業等々。短く刈り込みスッキリ夏スタイルに仕上がりに、神社全体が涼しくなった感じ。

だが、何故このくそ暑い時にやるのだろう？そこには先人達の知恵と訳がありました。夏草は猛烈に繁茂する。栄養分を吸い取ってしまう。すると、周辺の大木が育たない。ここは櫨と杉が天然記念物である。それを大きく育てる為でありました。刈られた草は、そのまま肥料になる。今はやりのSDGs？(エスディーエス)の一環。持続可能な豊かな森林の育成。先人達は、すでにこれをやってこられたのだ。難しいカタカナローマ字は知らなくても。

草刈りや花木剪定は周りを美しくするが、それ以外にもこの時期にやる事に意味がありました。それは土用の前にやる事です。先人達は、土用の期間の土いじり、草刈り等は忌み嫌ってききました。

この期間、土公神(土を司る神様)は土の中に居る。その時に土をいじると、その神が怒り、祟りがあると云われて来た。土を犯す作業や草木の殺生は不吉なこととされて来たのです。この期間は土の気が旺(さかん)になる時と言われます。土用は年に四回あり、今年の夏土用は7月20日〜8月7日。今年の作業も、土用前に行いました。迷信かもしれないけれど気になります。全員が



令和五年八月からの行事予定

- 8/1.....宮の森32号発行
- 8/16.....境内盆踊り
- 8/17.....拝殿踊り
- 8/18.....例祭関係者合同会議
- 9/4.....例祭大神楽稽古始め
- 9/10.....宮掃除、幟旗建て
- 9/18.....例祭神事(旧暦)
- 9/22.....例祭準備
- 9/23.....秋葉神社例祭・白鳥神社例祭試楽
- 9/24.....白鳥神社例祭本楽
- 10/22.....宮掃除
- 11/3.....初宮・七五三 神事
- 11/19.....神送り
- 11/23.....新嘗祭・左義長神事
- 12/17.....新年準備作業
- 12/31.....正月初詣準備・徹夜態勢に入る

御寄進・ご奉仕

- 一、秋葉神社灯笼修繕..... 足立好教 様
- 一、社務所前水路防護柵設置..... 足立好教 様
- 一、稻荷神社鳥居補強..... 川崎 弘 様
- 一、手水場清掃、池の泥上げ..... 川崎 弘 様
- 心温かいご奉仕、誠に有難うございます。

御朱印受付

ご希望の方は0575(82)4387・瀬上宮司まで
(文責・瀬木)